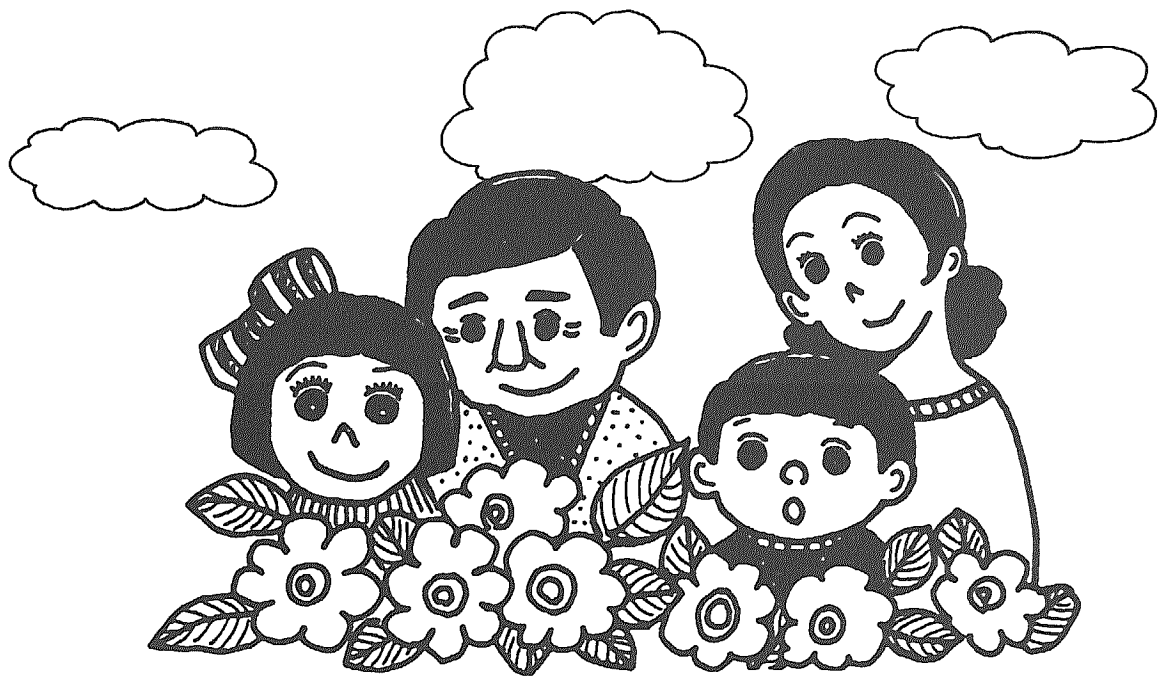


新年度の町づくり一般会計41億円の使いみち



63年度 一般会計当初予算 40億7000万円

町民1人あたりでは
17万8220円 (2月末日現在の人口で計算)

年度	町税	地方交付税	その他
63	16億1967万円	8億4000万円	34億5500万円
62	15億3779万円	7億8150万円	34億1100万円
61	14億7613万円	8億	33億9270万円
60	13億6702万円	7億9800万円	35億720万円
59	12億7904万円	7億1400万円	33億9370万円
58	11億9040万円	7億8100万円	30億

一般会計予算…前年度とくらべてみると

	63年度	62年度
◆総額	40億7000万円	34億5500万円
前年度比	+17.8%	+1.3%
町民1人あたりでは	17万8220円	15万3045円
◆自主財源	23億5617万円	20億4027万円
歳入の中での割合	57.9%	59.1%
◆町税	16億1967万円	15億3779万円
歳入の中での割合	39.8%	44.5%
町民1人あたりでは	7万9223円	6万8119円
◆町債(借金)	2億1820万円	1億980万円
歳入での割合	5.4%	3.2%
◆地方交付税	8億4000万円	7億8150万円
歳入での割合	20.6%	22.6%
◆人件費	12億2364万円	11億9530万円
歳出での割合	30.1%	34.8%
◆公債費(借金の返済)	4億3178万円	4億2265万円
歳出での割合	10.6%	12.2%
◆普通建設事業費	11億7215万円	6億4253万円
歳出での割合	28.8%	18.6%

初の40億突破の大型予算 歳出

一般会計予算とは、皆さんからいただいた町税や国庫の補助金などをどう使うか年度初めに決めたものです。昭和63年度(4月1日～64年3月31日)の町政の基本となります。なお、年度途中で事業を変更したり、予定した町税や補助金が増減した場合、補正予算が組まれます。

63年度一般会計当初予算の総額は40億7000万円です。前年度より6億1500万円の増です。伸び率は17.8%です。町民一人あたりでは17万8220円と、前年度より2万5175万円の増です。

のとして都市下水路、町道の整備が大きどころです。新規事業としては、山田小学校の増設事業を予定しています。借金の返済である公債費は4億3178万1千円を計上します。

性質別に予算をみますと、経常的経費といわれる人件費や公債費、物件費など必要不可欠な経費が71%を占めています。

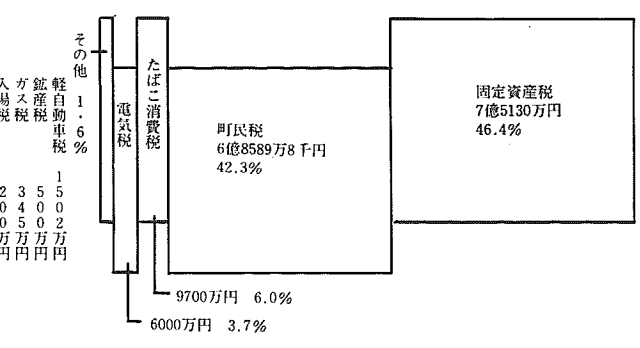
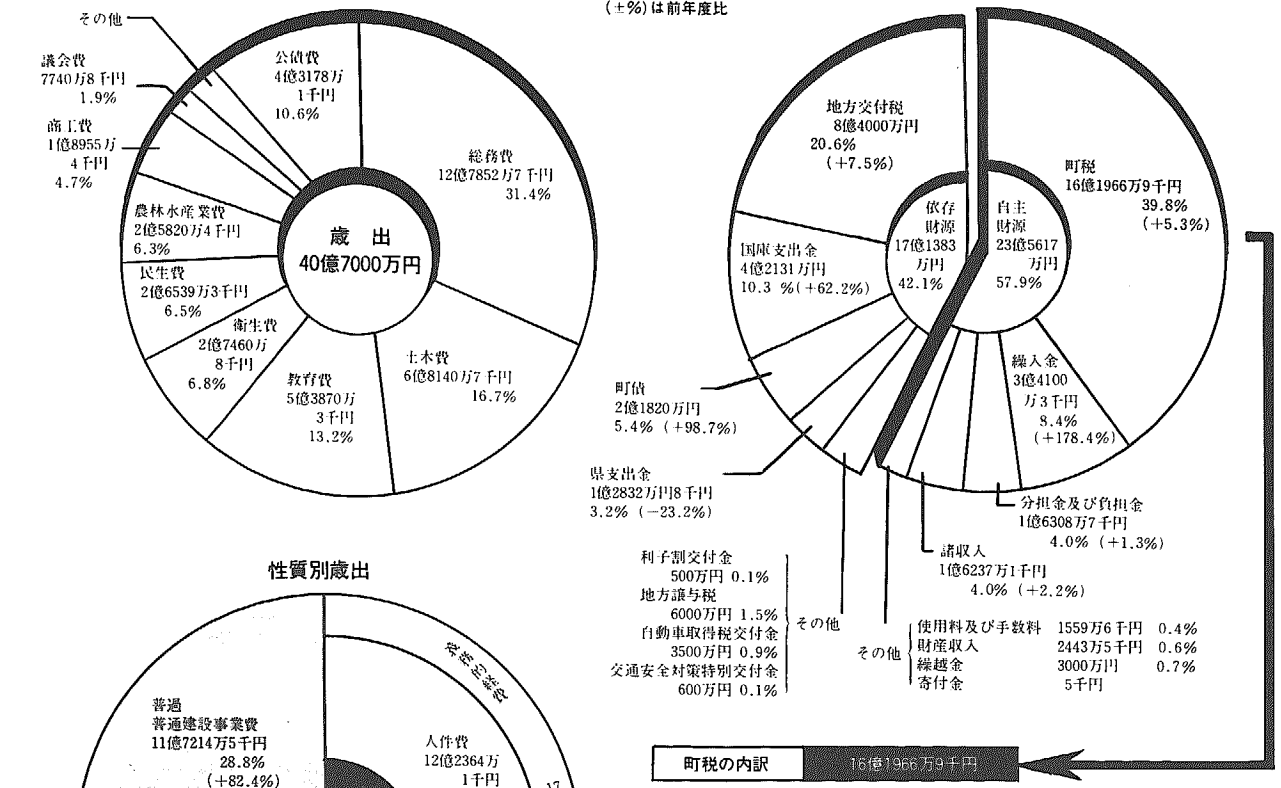
町税・交付金などが増加 歳入

歳入では町税を16億1967万9千9百99円と見積もりました。前年度より約8千万円の増です。町税のうち固定資産税は7億5130万円(前年度比73.6%)増、住宅増、農地の宅地化などを考慮しています。町民税は6億8589万9千円(154.8万円増)を見込みました。法人(1億8300万1千円、312.0万円増)は内需拡大、円高不況がゆるんだことにより増収が、個人(5億289万7千円、157.1万円減)は税制改正による控除率増のため減収が見込まれます。

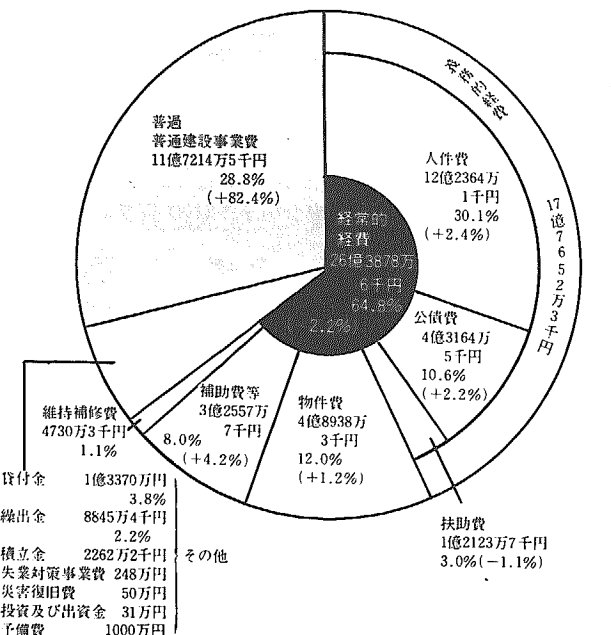
分担金及び負担金はほとんど保育料です。財源確保のため基金(町の貯金)を取り崩したのが繰入金で3億4100万円を計上。このうち2億1800万円を財政調整基金1億円を教育施設整備基金か

40億7000万円の内訳

(±%)は前年度比



性質別歳出



このほかにもどうしても必要なものは借金しなければなりません。これが町債で2億1820万円、前年度より1億8400万円増やりました。町債の残高は32億円近くあり、63年度末もほぼ同額です。